

小中学校の適正な規模等に関する意見交換会 議事録

1 開催日時

令和7年9月16日（火）午後6時30分～午後7時45分

2 開催場所

坂下小学校 体育館

3 参加者数 18名

【事務局】

春日井市教育委員会		部長	森本 邦博
〃	学校教育課	課長	前原 敦
〃	〃	主幹	梶田 傑
〃	〃	主幹	梶田 英男
〃	〃	課長補佐	深見 健司
〃	〃	主査	安田 和志
〃	〃	主事	杉山 太一

4 議題

坂下中学校区における小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について

5 会議資料

小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について（坂下小学校）

午後 6 時 30 分 開会

1 開会

教育部長あいさつ

2 議題

- (1) 坂下中学校区における小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について

【事務局】

＜本市の基本的な考え方とこれまでの取組について＞

- ・児童生徒数は全国的な少子化の進展に伴い減少を続けており、本市においても、同様に減少していくと推定される。子どもたちにとってより良い教育環境を実現するために、学校の適正規模や適正配置について検討を進める必要がある。
- ・学校規模の区分について、本市では今年 2 月に「小学校・中学校の適正規模の基本的な考え方」を策定し、その中で、規模が小さい学校について、クラス替えができるかどうかの視点から学校規模の区分を設けた。
- ・クラス替えが可能であれば、児童生徒同士の間関係に配慮した学級編成ができることや、集団の中で社会性を身に付けたりできるなど、子どもたちにとって多くのメリットがあることから、本市では、小学校、中学校ともに 1 学年に 2 学級以上あることが必要であると考えている。
- ・どの学年もクラス替えができない「過小規模校」や一部の学年でクラス替えができない「小規模校」について、過小規模校を優先に、適正規模の確保に努めるように検討することとしており、「坂下」「藤山台」「高森台」「石尾台」「岩成台」の 5 つの中学校区にある学校を最優先に検討を進めている。
- ・これまでの取組として、令和 7 年 4 月から 5 月にかけて、対象校区の小中学校 17 校の P T A 役員の皆様への説明と意見交換を実施した。その後 5 月から 6 月にかけて児童生徒やその保護者の皆様に、6 月から 7 月にかけて、地域にお住まいの方を対象にアンケートを実施した。

＜児童生徒数推計について＞（資料 1 ページ）

- ・昭和 41 年度から令和 13 年度までの、坂下小学校の児童数の推移は、昭和 53 年度の 1,683 人をピークに、令和 13 年度では 84.6%減少の 259 人と推計される。

- ・坂下小学校は、今年度、児童数 422 人、14 学級で、学校規模は「適正規模」である。今後は児童数、学級数ともに減少し、令和 12 年度からクラス替えができない学年のある「小規模」に、令和 22 年度には全学年でクラス替えができない「過小規模」になると推定される。
- ・坂下中学校は、今年度、生徒数 348 人、10 学級で、学校規模は、小規模だが、全学年でクラス替えのできる「やや小規模」である。令和 11 年度に一時的に「適正規模」になると推定されるが、令和 13 年度、19 年度、22 年度と、生徒数及び学級数は減少し、学校規模としては「やや小規模」で推移すると推定される。
- ・西尾小学校は、今年度、児童数 57 人、6 学級で、学校規模は「過小規模」である。児童数は減少し、令和 9 年度以降は、2 つ以上の学年を 1 つの学級として編成し、1 人の教師が同時に複数学年の授業を担当する「複式学級」が編成されると推定される。
- ・神屋小学校は、今年度、児童数 155 人、7 学級で、学校規模は「小規模」である。児童数、学級数はともに減少し、令和 10 年度以降は「過小規模」となり、児童数はその後も減少すると推計される。

＜アンケート結果について＞（資料 2～5 ページ）

- ・「1 学年に 2 学級以上となるように、学校の適正な規模や配置に市が取り組むことについて」の質問では、坂下小学校は、「賛成」の方の割合が、保護者で 63.6%、地域の方で 80.4%と、賛成意見が多い。
「反対」の方は、保護者で 5.9%、地域の方で 8.7%である。反対の理由として、保護者の方は「登下校の時間や方法」を心配する方が多く、地域の方は「環境変化による子どもたちへの影響」や「地域と学校の関係が希薄になるから」、「緊急時の避難場所が遠くなる可能性」を心配されている。また、坂下中学校区の西尾小、神屋小の 2 校を加えた「全体」の結果も、坂下小と概ね同様の結果となっている。
- ・先ほどの質問に対して「賛成」と回答した方のうち、「ご自分の子どもが通う学校、またはお住まいの地域の学校が、適正な規模や配置となるように取り組むことについて」では、坂下小学校、全体ともに「賛成」の割合が、保護者、地域の方のいずれも高い比率となっている。
- ・学級数については、保護者の方、児童生徒ともに 1 学年に複数学級が望ましいと考えている方が多く、クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができると考えている。

小学生の保護者では、「複数学級が望ましいと考えている人」は 96.4%、小学生では、「複数学級が望ましいと考えている児童」は 82.6%となっている。その中で坂下小学校を個別に見ると、坂下小学校では、回答した全ての保護者の方が複数学級を望

ましいと考えており、児童では、97.3%が複数学級を望ましいと考えている。保護者の方、児童ともに、坂下中学校区全体の結果より高い比率となっている。

- ・「学校生活において重要と思うこと」では、児童生徒は、「クラスが変わって、新しい友達がたくさんできること」や、「運動会などの行事でクラスに活気があること」が大事だと考えている。

小学生では、「クラスがかわって、新しい友だちがたくさんできること」を 43.7%の児童が選んでいるが、坂下小学校では、この項目を 52.7%の児童が選んでおり、坂下中学校区全体の結果より高い比率となっている。地域の方は、「多くの子どもたちによる人間関係の広がり」や「子どもたちの登下校」が重要と考えている。

- ・「魅力ある学校づくりを進めるため、学校の規模や配置を見直す場合に重要と思うこと」では、保護者の方は、「子どもの人間関係に広がりがあること」や「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」が重要と考えている。

地域の方は、「子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れること」をとっても多くの方が重要と考えている。

- ・「学校の適正規模等の取組において心配なこと」では、保護者の方は、登下校に関して心配と考えており、登下校については、安全性や時間が重要と考えている。

<本市の考え方について>（資料6 ページ）

- ・「児童生徒数推計」からは、坂下中学校は、基本的に「やや小規模」で推移すると推定される。小学校においては、令和 22 年度では、坂下小学校と神屋小学校は全学年で学級数が 1 学級の「過小規模」であり、西尾小学校においては、複式学級となることが推定される。
- ・「アンケート結果」からは、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて、賛成意見が多く、複数学級を希望する意見が多い。保護者は、子どもの人間関係に広がりがあること、児童生徒は、クラス替えで新しい友達がたくさんできること、地域の方は、子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えている。一方で、学校の規模や配置を見直す場合に、多くの方が登下校に関し心配している。
- ・「地域の特性」として、坂下中学校区は、隣接する中学校区と地形的に隔たりがある。春日井市に合併前の旧坂下町地区として、地域のつながりがある。
- ・「児童生徒数推計」「アンケート結果」「地域の特性」を踏まえ、本市としては、坂下中学校区の小中学校が適正な規模や配置となるように、具体的な検討を進めていきたいと考えている。

また、検討にあたっては、次のことに留意をする。

- 1 坂下中学校は、「やや小規模」で推移すると推定されることから、その推移を見守る。
- 2 小学校は、地域の特性を考慮し、坂下中学校区の中だけで適正規模等の検討を進めていく。
- 3 登下校の安全性や時間を心配する方が多いことから、バスの利用など通学手段についても検討する。

3 意見交換

【質問 1】

学年に 1 クラスなど、規模の小さい方が手厚く指導してもらうことができ、授業中も静かに授業を受けることができると思う。なぜ春日井市は複数クラスを推奨するのか。

【事務局】

小規模校の方が、教員が一人ひとりの児童生徒の個別の学習状況や家庭状況を把握しやすい環境にあると承知しています。しかしながら、クラス替えができず人間関係が固定化しやすいことや、体育の球技や音楽の合唱など集団で行う授業に制約が生じるなどの課題があります。また、学年に関わる教員が 1 人だと児童生徒への関わり方が固定されてしまうことや、教員同士が切磋琢磨する環境が生まれにくいこともあります。

これらのことから、春日井市は 1 学年に 2 学級以上を確保したうえで魅力ある学校づくりを目指していこうと考えています。

【質問 2】

この先、協議会などを設置して検討する機会はあるのか。我々の意見はどのくらい反映されるのか。

【事務局】

各小中学校の皆様の意見を聞き、一度フィードバックする機会を設けたいと思っています。今後の具体的な検討に関しては、保護者や地域の代表の方、学校の関係者を含んだ協議会のようなものを設置し、検討していきたいと考えています。

【質問 3】

学年に 1 クラスの小規模校でもうまくやっている県があると思う。小中学校の適正な規模等に関する他の市の実例はどうなっているのか。

【事務局】

文部科学省が2年に1度実施している「学校規模の適正化及び少子化に対応した学校教育の充実策に関する実態調査」では、74%の市町村が課題を認識しており、そのうちの83%の市町村が対策の検討に着手しています。また、令和4年度には160校、令和5年度に132校が実際に統合して開校しています。岐阜の山間部の学校では学校が分散しているので統合が難しく、そのような学校は小規模校のメリットを生かし、デメリットを最小化するための教育環境の整備を文部科学省は推奨しています。基本的に小学校は1学年2～3クラスが望ましいと文部科学省が定めているため、春日井市もその考え方で検討しています。

【質問4】

小学校の1クラスあたり35人という基準から人数を減らすことでクラス替えができるようになるのではないかと。

【事務局】

本市の1学級あたりの人数は、愛知県の基準と同様に、小学校の全学年及び中学1年生は35人、中学校の2、3年生は40人としており、その基準をもって教員数が配置されています。1クラスあたりの子どもの数を減らしてクラス数を増やしても教員数が増えないため、市独自で学級数を定めることは難しいと考えています。

【質問5】

今後のスケジュールを教えてください。

【事務局】

現状、具体的な日程は決まっていません。今後、保護者や地域の方など代表者を募り、協議会のようなものを設置した上で坂下地区をどうするかを具体的に検討していく予定です。また学校を新たに作ったり、改修したりするとなると5年近くかかるかと想定されます。まずは市と皆様との合意形成を図り、スピード感をもって具体的なスケジュールを決定していきたいと考えています。

【質問6】

良い学校づくりのためにも具体的な案を提示してほしい。

【事務局】

今後、皆様と話し合いをしていく中で、魅力ある学校づくりをしていくための提案をさせていただきたいと考えています。皆様と話し合いを深め、地域に人が増えていくような、地域づくりに貢献できる新しい学校づくりをしていきたいと考えています。

【質問 7】

1 学級あたりの人数は国や県が定めていると言っていたが、人数を減らせるよう県に要望したらよいと思う。市から国や県に要望する機会はないのか。

【事務局】

毎年、予算編成の時期などに合わせ、市長が県の教育委員会へ直接出向き、教員の配置などについて、県に要望する機会があります。

【質問 8】

アンケートの内容について、「小中学校の適正な規模」など難しい表現が多くみられた。次回アンケートを実施するときはより具体的にわかりやすくしてほしい。

【事務局】

「小中学校の適正な規模や配置」という表現になってしまったのは「統合」だけでなく「通学区域変更」など、他の手法もあるという意味合いを含んでいたからです。現時点で、次のアンケートを実施することは未定ですが、今後、皆様に意見を聞く際には、誰が聞いても分かりやすい表現を用いることを意識したいと思います。

【質問 9】

未就学児の保護者など、今後就学し、学校規模の適正化の影響を受けると考えられる世代にはアンケートを実施したのか。

【事務局】

坂下地区とニュータウン地区内の公私立保育園、私立幼稚園、認定こども園に協力をしていただき、未就学児の保護者の皆様にアンケートの案内をさせていただきました。今回のアンケート結果には、未就学児の保護者からの回答結果も含まれています。

【質問 10】

我々の意見は反映されるのか。この意見交換会の重要性はどれだけあるのか。重要であるなら地域の方をもっと巻き込んで意見を聞いた方がよいと思う。

【事務局】

全ての要望について実施できるとは約束できませんが、行政の視点と実際に地域に暮らしている方の視点は異なるので、皆様から直接意見をいただける場として大変有意義な場だと考えています。皆様からいただく多くの意見を参考に、多角的な議論に努めていきたいと考えています。

【質問 11】

西尾小学校では適正化に対して賛成の割合が低い。その理由は。

【事務局】

アンケート結果を見ると、現時点で過小規模の学校は、賛成の割合が低い傾向にありました。ここからは我々の推測になりますが、現状の1クラスに満足していて、無理に複数学級にならなくてもよいという方もいるのではないかと考えています。

【質問 12】

教員が対象のアンケートは実施したのか。

【事務局】

教員に対するアンケートは実施していませんが、先日、坂下小学校で、教員に説明してほしいとの要望があったので、市と教員との話し合いの場を設けました。今後も要望があれば、教員の意見を聞いていきたいと考えています。

【質問 13】

意見を出し合って、一緒に考える機会を作してほしい。

【事務局】

これからも、皆様と市とで協議する場をつくり、何回か開催したいと考えています。協議の中で様々な意見がでてくるとはと思いますが、無理だと一蹴するのではなく、少しでも理想に近づけるような検討ができればと考えています。

4 今後の進め方について

【事務局】

- ・まずは、本日開催している意見交換会を坂下中学校区の各小中学校で開催し、その際にいただいたご意見などを取りまとめた上で、次は坂下中学校区全体の単位で、年内に2回目の意見交換会を開催したいと考えている。
- ・その後、坂下中学校区で保護者や地域の代表の方、また、学校関係者などで構成する、学校づくりを検討するための組織を立ち上げ、学校の適正規模や適正配置について、具体的な検討を行っていきたいと考えている。
- ・次回の意見交換会の日程は、市ホームページでお知らせするほか、保護者の方へはHome&Schoolで、地域の皆様へは回覧板でお知らせする。

5 閉会

午後 7 時 45 分 閉会